

96 初代総長 ^{しぶさわもとじ} 澁澤元治 — 名大をひきいた人びと⑥ —

昨年4月1日、^{はまぐちみちなり}濱口道成名古屋大学第13代総長が誕生しましたが、そのちょうど70年前の1939(昭和14)年4月1日に初代総長となったのが澁澤元治です。

澁澤は、1876(明治9)年、現在の埼玉県深谷市に、豪農澁澤家の長男として生まれました。かの澁澤栄一は、その伯父にあたります。本来は澁澤家の跡継ぎであった元治ですが、第一高等学校から東京帝国大学工科大学(現在の東京大学工学部)に進み、電気工学を学びました。卒業後、^{しん}栄一のすすめで欧米に4年近く留学したのち、1906年に通信省に入り、官僚として日本の電気行政の確立に大きな足跡を残しました。

その一方で澁澤は、日本を代表する電気工学者でもありました。1923(大正12)年には日本電気学会会長となり、その翌年には東京帝国大学専任教授に就任、のち工学部長を務めました。1929(昭和4)年には、世界の電気工学者にとって最高の荣誉であったアメリカ電気学会名誉会員に選

ばれています。37年に定年退官したのち、新設された名古屋帝国大学の総長に任命されたのです。

医学部と理工学部の2学部で出発した名帝大ですが、理工学部はまだ名前だけで、東山キャンパスには何もなく、これから施設を整備し、教官を集めなければなりません。澁澤が総長に任じられたのは、理工学部の創設にその学識や声望を期待されてのことと思われます。澁澤はその期待に応え、1940年には理工学部を発足させ、42年には理学部と工学部を分離独立させることに成功しました。戦争中のことだけに、その苦勞がしのべれます。

敗戦後も、空襲で焼失した校舎の再建に奔走するとともに、GHQによって廃止させられた航空医学研究所を環境医学研究所として発足させるなど、名帝大の復興に力を尽くしました。しかしその中で体調をくずし、1946年1月に退職、後事を第二代総長田村春吉に託して郷里の埼玉県にもどり、遅ればせながら澁澤家を継いだのです。



- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 4 | 1 澁澤元治 (1876-1975)。本文の経歴のほか、1938年には帝国学士院(現在の日本学士院)会員、1955年には文化功労者に、いずれも電気工学者としては初めて選ばれた。この写真は、名古屋帝国大学医学部の卒業記念アルバム(1941年)に掲載されていたもの。 |
| 3 | 5 | | |
- 澁澤総長は、「和をもって貴しとなす」を大学全体のモットーとして、戦時中の困難に立ち向かった。写真のように総長室には、名帝大創設を決定した首相である近衛文麿の揮毫が飾られていた。国民服姿が時代を語る。
 - 澁澤元治「我等の学園」(大学文書資料室所蔵)。澁澤総長は、食事とともにしながら学生と語らう「総長懇談会」を頻りに開いた。本文18頁のこの小冊子は、その際に配布するために作成されたもの。
 - 澁澤元治(澁澤栄一)の生家(写真=深谷市教育委員会提供)。埼玉県指定旧跡になっている。
 - 第50回澁澤賞贈呈式の模様(2005年11月)。澁澤賞は、澁澤元治が文化功労者に選ばれたことを記念して、1956年に社団法人日本電気協会によって創設された。現在も、電気保安事業に大きな貢献をした人々に毎年授与されている。

